

感染対策地域連携カンファレンスにおける当院の取り組みについて

◎江藤 美咲¹⁾、藤本 里枝¹⁾、倉田 哲一¹⁾、岡田 宏之¹⁾
JA 山口厚生連 周東総合病院¹⁾

【はじめに】

2022年度診療報酬改定で、新型コロナウイルス等の新興感染症にも対応できる、質の高い医療提供体制の構築が求められるようになった。当院は感染対策向上加算1を取得しており、抗菌薬適正使用による院内感染対策だけでなく、連携病院との研修会や指導、訓練を行い地域の中心的役割を担っている。今回、新興感染症等の発生を想定した訓練で、臨床検査技師としての取り組みを経験したので報告する。

【方法】

近年、日本国内で増加傾向にあるバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）について、参加14施設でアウトブレイクを想定したケーススタディを行った。まず、一般急性期病院の病棟でVREが1例検出されたと想定し、ICTメンバーの一人としてどのように対応するべきか、時系列を追ってグループごとにディスカッションし、発表を行った。

【結果】

始めにVREの疫学情報について、臨床検査技師としての観

点から講義を行うことで、その後のグループワークをスムーズに進行する事が出来た。多種職でのディスカッションとなるため、様々な視点から意見を交換することが出来た。薬剤耐性菌について知識を深めてもらい、発生した際の感染対策について理解を得ることが出来た。

【結論】

感染対策向上加算1の要件を満たしている病院は、自施設の感染症対策だけでなく、地域全体の感染対策を支援する必要がある。また、薬剤耐性菌や新型コロナウイルス等の新興感染症にも対応できるよう、これまで以上に地域における役割分担と連携が求められる。今回の感染対策地域連携カンファレンスを通して、地域における感染拡大を防ぐためにも日頃から病院同士や保健所と情報共有することの重要性を再確認する機会となった。臨床検査技師として地域医療に貢献できるよう、今後の取り組みに繋げていきたい。

連絡先：0820-22-3456